

「阿蘇の草原キッズになるう」

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家

【共催】 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会

【後援】 熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会

【期間】 【秋 編】 平成22年10月14日(木)～10月15日(金) 1泊2日

【野焼き編】 ①平成23年2月21日(月)

②平成23年2月24日(木), 2月25日(金)

【会場】 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺

【参加者】 【秋 編】 阿蘇市立坂梨小学校4年生17名, 引率教諭3名

阿蘇市立碧水小学校5年生29名, 引率教諭2名

阿蘇草原再生協議会会員14名, ボランティア3名

小堀牧野組合員4名

計72名

【野焼き編】 阿蘇市立坂梨小学校4, 5年生28名, 引率教諭5名

阿蘇市立碧水小学校5年生29名, 引率教諭2名

阿蘇市立波野小学校4～6年生42名, 引率教諭3名

阿蘇市立阿蘇西小学校6年生22名, 引率教諭1名

阿蘇市立山田小学校4年生13名, 引率教諭1名

町古閑牧野組合員2名, 小堀牧野組合員7名

阿蘇草原再生協議会会員10名, 野焼き支援ボランティア28名

計193名

【講師】 【秋 編】 阿蘇グリーンストック 環境教育担当 永原 彰子 氏

1 趣 旨

阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動の直接体験を通して、草原環境保全への意識を高めることができる草原環境学習プログラムを考える。

2 目 標

- (1) 阿蘇の子どもたちに直接の体験や学習を通して、阿蘇の草原環境の現状と課題などを理解させるとともに、草原環境への興味・関心を高めることができる。
- (2) 草原環境学習小委員会と協働で実施し、効果的な草原環境学習プログラムの在り方を検証することができる。
- (3) 阿蘇の子どもたちへの草原環境学習の学びの場をどのように設けていくのか、その学習の場を提供するために、小学校や関係機関との連携をどのように図っていくのかなどを考え、関係機関と協議や情報交換をすることができる。



野焼き体験の様子

3 事業展開

(1) 研修プログラム

【秋 編】

期 日	午 前	午 後	夜
10/14 (木)	○草原散策	○赤牛とのふれあい体験 ・えさやり体験 ・牛の体へのネーミング	○学習「草原の現状と危機」 ○星座観察
10/15 (金)	○草小積み体験 ○振り返り学習		

【野焼き編】

期 日	午 前	午 後
2/21 (月)	《坂梨小学校4, 5年生》 ○学習「野焼きについて」 ○松明づくり ○野焼き体験	
2/24 (木)	《碧水小学校5年生》 ○学習「野焼きについて」 ○火消し棒づくり	《波野小学校4～6年生》 ○学習「野焼きについて」 ○火消し棒づくり
2/25 (金)	《碧水小5年生・阿蘇西小6年生・ 山田小4年生・波野小4～6年生》 ○学習劇「野焼きについて」 ○野焼き体験	

(2) 目標達成のための手立て

① 学校との連携

ア 秋編では、年間を通じて総合的な学習の時間で草原の環境学習に取り組んでいる碧水小学校5年生と坂梨小学校4年生との連携を図った。プログラムは、それぞれの担任の先生と施設職員、草原再生協議会学習小委員会メンバーで、学習として取り組む内容を協議し、決定した。学校単独ではできない現場での体験活動をメインとし、1日目の午後2時間と2日目の午前中4時間の授業時数を使って行った。2つの学校が参加するため、グループを2つの学校の児童を混ぜて作り、交流もできるように工夫した。



赤牛へのえさやり体験

イ 野焼き編では、秋編に参加した学校だけでなく、広く阿蘇市内の小学校に呼びかけ、5つの小学校と連携することができた。泊を伴うのではなく、野焼き体験と事前学習の2日間に分け、事前学習は学校に出向いて行うようにし、学校が参加しやすいように工夫した。野焼き編でも学習として位置づけ、各学校の授業時数を5～7時間使って平日に開催し、学校現場で使える効果的な草原環境学習プログラムを検証できるように工夫した。

② 阿蘇草原再生協議会学習小委員会との連携

ア 秋編、野焼き編ともに環境省が中心となって組織された阿蘇草原再生協議会の草原環境学習小

委員会と協働で実施した。草原環境学習小委員会ワーキンググループと題した会議を定期的を開催し、プログラムの内容や実施時期・場所などについて協議するとともに、役割分担をし、プログラムの内容をそれぞれの得意分野で運営するようにした。また、秋編・野焼き編ともに、学習劇をプログラムの中に取り入れ、草原環境学習小委員会のメンバーで、草原のことを学ぶことができる劇を子どもたちに披露する場を設け、草原環境を子どもたちが理解しやすいように工夫した。

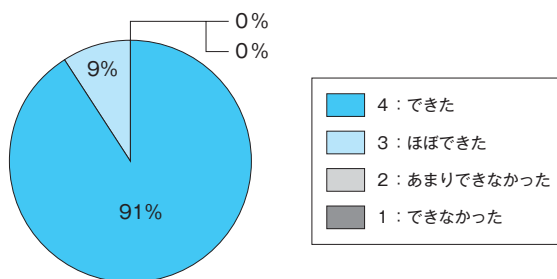


4 結果

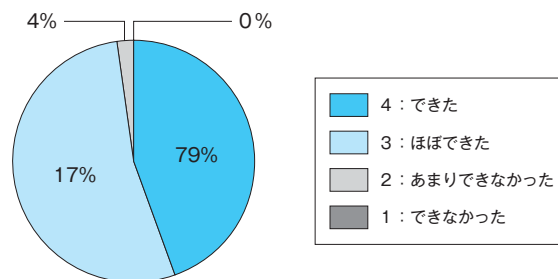
参加者の事後アンケートの結果は、以下の通りである。

【秋 編】

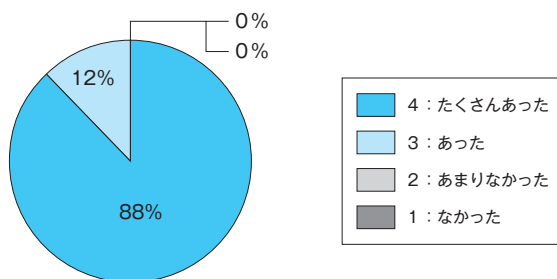
● 全体を通して楽しく学習できましたか。(研修内容)



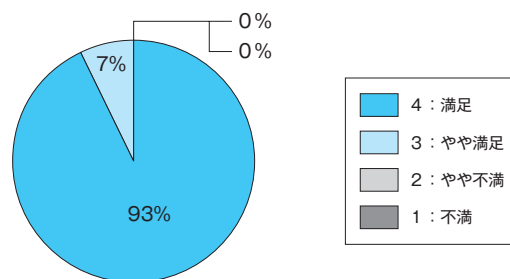
● 先生たちの話を理解できましたか。(理解度)



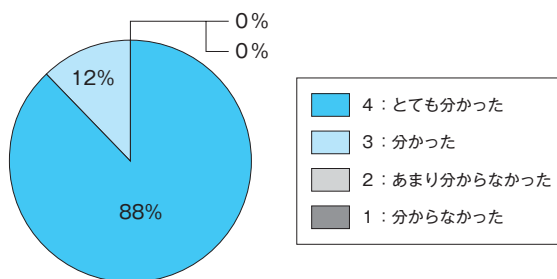
● 草原散策で発見はありましたか。



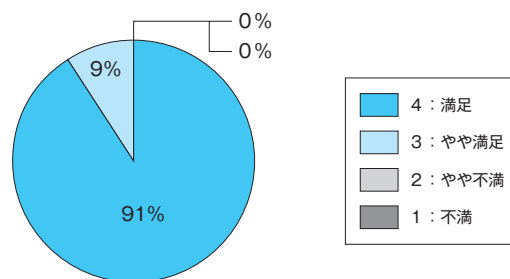
● 赤牛とのふれ合いはどうでしたか。



● 学習では草原のことが分かりましたか。



● 草小積み体験はどうでしたか。



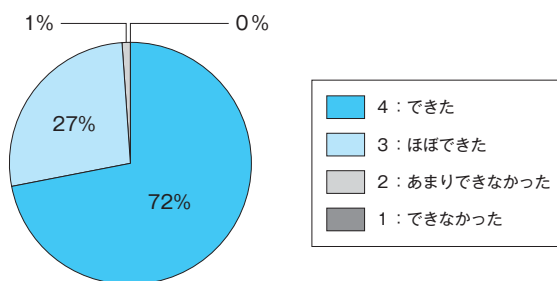
【参加者の声】

- このスクールに参加して今よりもっと草原を大切にしていきたいと思いました。
- 赤牛とか動物がいっしょうけんめい生きようとしていること、昔の仕事はこんなに大変なんだということが分かりました。次は野焼きがあると聞いたので、ぜひ参加したいです。
- 赤牛に字を書くとき赤牛が気持ち悪そうでした。私も触れたら気持ち悪いです。触れあったとき、赤牛の気持ちを考えました。草原を赤牛のためにも守りたいです。

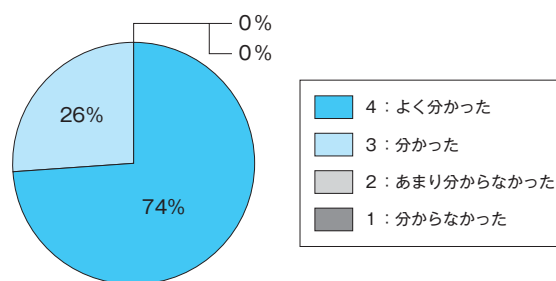


【野焼き編】

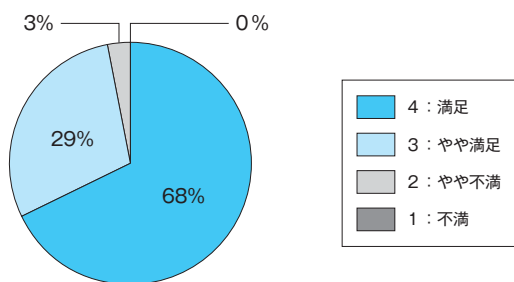
● 全体を通して楽しく学習できましたか。(研修内容)



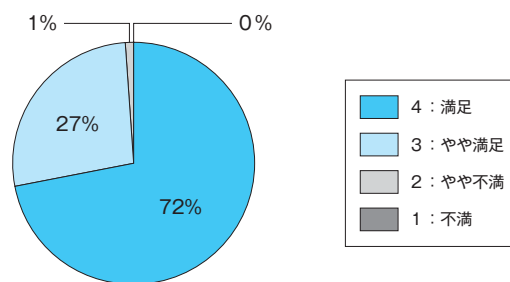
● 野焼きのことが分かりましたか(理解度)



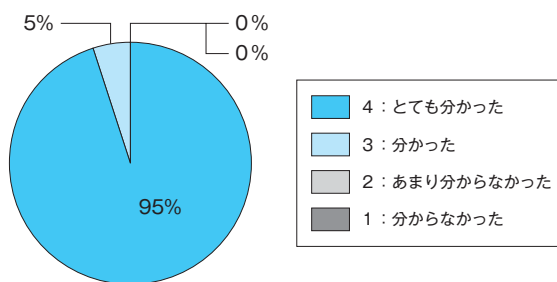
● 野焼き体験はどうでしたか。



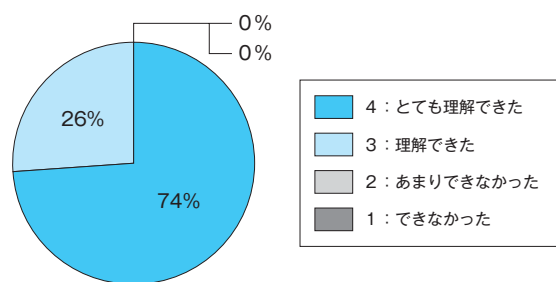
● たいまつ、火消し棒作りはどうでしたか。



● 学習劇では野焼きのことが分かりましたか。



● 野焼きの事前学習では理解できましたか。



【参加者の声】

- 野焼きは楽しそうだと思っていたけど、実際にやってみるときつくて、けむりで涙が止まりませんでした。野焼きの大変さが分かりました。
- 野焼きをしなくなると、阿蘇のきれいな草原がなくなってしまうことが分かりました。草原をなくさないためにも地域での野焼きに参加したいです。
- 火が大きくて危険だけど、阿蘇の草原を守るためにいろいろなところからたくさんのボランティアの方々が来て、がんばっていることを知って、自分は何ができるかと思った。
- 初めて野焼きを体験して、お父さんたちといっしょの気持ちになりました。とてもいい経験となり、うれしかったです。
- 火を消す体験があまりできませんでした。もっと火を消したかった。



5 成果と課題

(1) 成果

- ① 草原環境学習小委員会と連携して事業を運営したことにより、各協力機関が持つノウハウや人、場所、物などを生かしながら子どもたちの体験活動への指導・支援を行うことができた。
- ② 野外での活動が主になるが、学校と連携することができたことで、雨天時には日程を変更することが可能となり、子どもたちに体験させたいプログラムを精選することができた。
- ③ 各小学校の教育課程における総合的な学習の時間として、本事業を位置づけることができたことで、本事業の事前から事後を貫く単元を通した深まりのある学習を展開することができたと考える。また、このことは、学校現場に取り入れることができる草原環境学習のカリキュラム化の検証につながったと考える。
- ④ 今年度は、多くのマスコミから事業の内容が報道され、学校だけでなく、行政機関など連携を図ることができる団体が増えた。



(2) 課題

- ① 複数の学校が合同で事業に参加する場合は、各校の児童の実態をつかむとともに、事前学習を行うなどして、ある程度の知識レベルをそろえる必要がある。
- ② 今年度は、小規模校と連携して行ったが、今後学校が統合し、規模が大きくなっていくことを考慮し、中規模校との連携の在り方や人数が増えた場合の安全策や指導体系、場所などを探る必要がある。
- ③ 野焼き編では、泊をともしない半日の日程で事業を展開したが、十分な体験と振り返り学習の時間を確保するために、余裕がもてる日程で事業を計画したい。来年度、泊がともしえるように学校と早い時期に連携を図り、計画・準備を進めていきたい。